

芭蕉元祿事業 奥の細道むすびの地「大垣」十六万市民俳句ポスト

平成二十七年三月度 入選句（投稿総数千九百五十九句・小中学投句数千三百四十五句）

特選

選者 説田 祐子

ぶらんこでぶつかる風としゃべったよ 大垣市 廣瀬 心音(小五)

寒かった冬も過ぎ、春めいてきた日、作者は「ぶらんこ」に乗ったのですね。そんな作者の類に風がまるでぶつかるように吹いてきた。その風と「しゃべった」というのがおもしろいです。風が冷たいとか暖かいとか気持ちがいいとは書いていませんがやっぱり暖かく気持ちよかったのですね。さらに何をしゃべったのでしょうか。進級前の思い出や新学年への期待でしょうか。作者の風に対する行動から春らしい情景や作者の新学年への前向きな気持ちも伝わる句です。

手を握り「つめたいね」って笑い合う 美濃加茂市 羽田 彩華(中二)

春になつても肌寒い日が続きましたね。そんな時、作者は友だちでしょうか、家の人とでしょうか手を握り合ったのですね。握り合った手は冷たかったのかもしれませんが、二人もそしてこの句を読んだ人も 心の中には温かさが伝わってきます。「笑い合う」が利いています。

リコーダーの音に合わせて鳥おどる 大垣市 小林 昂汰(小三)

作者は小三とありますが、三年生から習い始めたリコーダーもきつと上手になったのでしょう。進級を前にリコーダーの練習をしていると窓の外に鳥が飛んでいたのでしょうか。リコーダーの旋律が上がったり下がったりするように鳥もまた春の空を上へ下へと飛んでいたのでしょうか。そんな様子が目に浮かびます。この時期にこの句を読むと作者の進級を迎える喜びも伝わってくるようです。

秀逸

春の風花のにおいを届けてる 大垣市 宮田 紗耶加(小六)

春風といっしよに探検中学校 大垣市 山本 拓摩(小六)

はるのそらふうせんわらってとんでいく 不破郡垂井町 勝 七海(四才)

みんなより家族が多いつくしさん 大垣市 大橋 桃羽(小三)

犬走るちようちよがあとについていく 大垣市 西脇 楓華(小五)

妹の笑顔重なるひなかざり 大垣市 影山 滉 二(小五)

チューリップつぼみがさいておともだち 大垣市 あわの はるとも(小二)

新学期ふでばこかえて歌うたう 大垣市 富永 実希(小二)

楽しそうちようちよが空をたびしてる 大垣市 吉岡 泰基(小二)

えんぴつがみじかくなって春休み 大垣市 山田 ゆあん(小二)

入選

遊び足り学び足りず卒業す	大垣市	和田	大輝(中三)
故郷出る勇氣もないが卒業す	大垣市	前川	泰吉(中三)
学舎が白紙に戻る卒業日	大垣市	木村	雅(一中三)
梅の花となりの家からおいくる	大垣市	近藤	日和小三
しもやけで小ゆびぷっくりおだんごだ	大垣市	若杉	茉桜(小四)
春になりぼくの気持ちもリセットを	大垣市	三田	柊弥(小五)
雪つぶて未来の私になげかける	美濃加茂市	美濃輪	万心中二
俳句よみ想い伝えるあなたいる	美濃加茂市	高野	結菜中二
雪がとけぼくのあそびがへっちゃった	大垣市	眞下	直也(小二)
桜道涙と笑顔つまってる	美濃加茂市	堀部	なな美中二

入選

さくらたちおちるなおちるながんばるよ	大垣市	斎藤	光起(小三)
人生へ一皮脱いで卒業す	大垣市	岩田	真歩(中三)
成長の証と共に卒業す	大垣市	大倉	綾乃(中三)
つうがくろほのかにかおるうめの花	大垣市	高木	愛加(小三)
きがえないふくをきているつくしさん	大垣市	岩井	心花(小三)
ひな祭り姉ちゃん今日だけごきげんだ	大垣市	大橋	一輝(小五)
青風船空にまぎれてかくれんぼ	大垣市	菅野	あいり(小五)
さくらさき一年生をまっている	大垣市	宮川	友杏(小二)
うめの花となりに小川おどってる	大垣市	松岡	優奈(小二)
めだかの子わたしとおなじしんがつき	大垣市	山村	咲絢(小二)

選者吟

ふるさとを俳句に詠んで卒業す

祐子